

船舶事故等調査報告書

平成24年12月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第104号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年3月31日 06時05分ごろ
発生場所	千葉県千葉港葛南区市川水路入口 千葉県市川市所在の千葉港市川第1号灯浮標から真方位005° 650m付近 (概位 北緯35° 38.5′ 東経139° 58.5′)
事故等調査の経過	平成24年7月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第三共福丸 ^{きょうふく} 、199トン
船舶番号、船舶所有者等	135123、大岡海運有限公司
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船首船底部外板に凹損及び擦過傷
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、船首約2.4m、船尾約3.6mの喫水で千葉港葛南区市川水路を北進中、南南西の強風に圧流された際、船長が浅所に接近していることに気付かず、平成24年3月31日06時05分ごろ市川水路入口東側の浅所に乗り揚げた。 本船は、機関を後進にかけて自力離礁し、航行を続けて葛南区の岸壁に着岸した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南南西、風力 6、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の末期
その他の事項	船長は、千葉港葛南区への入港経験が約8回あった。 船長は、南南西17m/sの強風下、積荷の状態が気に掛かって船位の確認を行っていなかった。 船長は、浅所が存在することを知っていたが、海図上で浅所の場所を確認していなかった。 船長は、前航海の荒天で軽い荷崩れを起こしたことを問題視され、気に掛けていた。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、千葉港葛南区市川水路を北進中、風力6の風により圧流された際、船長が、積荷の状態が気に掛かり、船位の確認を適切に行っ

	ていなかったことから、市川水路入口東側の浅所に接近していることに気付かず、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、千葉港葛南区市川水路を北進中、風力6の風により圧流された際、船長が、船位の確認を適切に行っていなかったため、市川水路入口東側の浅所に接近していることに気付かず、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 港に入航するときは、海図で水深を確かめ、船位を確認すること。